令和6年度 定時総会挨拶

公益社団法人静岡県看護協会

会長 松本志保子

皆様、おはようございます。

県看護協会の松本でございます。

定時総会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本日はお足元の悪い中をご参集いただきましてありがとうございます。

会員の皆様におかれましては、日頃より本会事業の運営につきましてご理解とご支援を頂きまして心より感謝申し上げます。本日はご参集いただきましてありがとうございます。

また、大変お忙しい中、ご臨席いただきました、ご来賓の皆様にご挨拶申し上げます。

今年の幕開けは能登半島の激震でした。被害を受けられた多くの方々に改めてお見舞いを申し上げます。

本会は1月12日から2月23日までの期間、延べ191名の災害支援ナースを石川県輪島市および金沢市の避難所等へ派遣いたしました。派遣に際しましては迅速なご対応など皆様に多大なるご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。

昨年、渡邊前会長からバトンを受けて早いもので一年が経ちます。この一年はとても早く過ぎました。本会が行っている事業等の内容をお伝えしたいと思い、昨年9月からホームページ上に「会長の部屋」を開設しました。また、地域包括ケア推進支援事業を展開している地域や「静岡県重症心身障碍児（者）を守る会」や「静岡県難病団体連絡協議会」の皆さんからお声掛け頂き、その都度挨拶の機会もいただきました。とても光栄なことです。ネットワークが広がり、看護の力で地域が元気になっている様子を実感し誇りに思いました。そして、福祉領域の方々からの看護への期待などを直接伺いすると同時に看護協会事業展開へのヒントも得ることができました。

さらに、昨年は「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」が約30年ぶりに初めて改正されたことをはじめとして、令和6年度診療報酬改定では看護職をはじめとする幅広い職種に対する賃金引上げ・処遇改善が実現、専門性の高い看護師の評価など大きな動きがありました。さらに、改正感染症法・改正医療法により災害支援ナースは「災害・感染症医療業務従事者」に位置づけられました。このような契機を活かすべく、本会では団塊の世代が75歳以上に達する2025年を目前に控え、これまで展開してきた重点事業を評価しつつ、全世代型の地域共生社会の実現が必要となる2040年を見据え

て具体的な方策を重点事業に掲げます。掲げた重点事業は5項目です。「地域における全世代の健康を支える看護機能強化」「質の高い看護提供体制の構築と推進」「看護制度改革の推進」「看護職等の確保と定着」「災害(自然・感染症)発生時における危機管理体制の充実」です。超高齢化社会に加え、生産年齢人口の減少など変化する社会で看護が役割を発揮し、予防活動、健康増進にも大きく関与している専門職として組織の枠を超えて地域や多職種と連携し、多様化したニーズをとらえ、自律的に行動することが期待されています。ここで一点、懸念されることとして、会員数の減少傾向があります。今年の同時期の会員数が22,071名でしたが、今年6月13日付けの会員数は21,409名です。現時点では662名の減少です。私たちの静岡県内の多くの看護職の皆さんに本会の理念にご賛同していただき、看護の質向上に向けて共に活動していきたいと思っています。そのためにも前向きに(後ろ向きでいいのは車を止めるときだけだとある看護管理学の教授がおっしゃっていました)事業の可視化と情報発信に努めます。今後も、看護職を取り巻く様々な課題解決に向けて日本看護協会および関係団体や静岡県行政と連携して取り組んで参ります。本日は本年度の事業計画を含む提出議案につきまして、皆様からの忌憚のないご意見がうかがえますことと、活発な意見交換ができますことを期待しております。

どうぞよろしくお願いたします。